

騒音の概況

1 騒音の概要

「邪魔な音」と「快い音」、「うるさい音」と「静かな音」の判断は聞き手により異なります。騒音公害は音に対する感じ方の個人差及び慣れにより、快音、雑音、騒音と各個人が主観的に判断するものです。歌っているカラオケの音は心地よい音だが、店から漏れるカラオケの音は騒音にすぎないという経験は誰にもあると思います。

また、騒音を取り締まる法律（騒音規制法）では、その地域の静かさを確保する基準値（環境基準）などが定められています。しかし、音の大きさが基準値内であっても、うるさい場合もありますし、他方で、基準値を超えていても、うるさいと感じない場合もあります。そのため、騒音公害は取り扱いが難しい問題となっています。

2 騒音の大きさ

騒音の大きさはデシベル（dB）で表します。

騒音の大きさ	騒音の目安
120dB	飛行機のエンジン近く
110dB	自動車の警笛（前方2 m）
100dB	電車が通るときのガード下
90dB	カラオケ（営業所内）・大声による独唱
80dB	地下鉄、バスの車内
70dB	電話のベル（距離1 m）、騒々しい事務所の中
60dB	普通の会話（距離1 m）
50dB	静かな事務所
40dB	図書館、静かな公園、住宅地の昼
30dB	静かな住宅地の夜

3 騒音の地域

「騒音規制法」および「静岡県生活環境の保全等に関する条例」では、騒音の発生している地域および騒音の種類により守るべき音の大きさが規定されています。

住宅地で発生する騒音についてはより厳しい規制基準が課せられますが、工業地域の規制基準は緩くなっています。騒音規制法では住宅地のように静かな環境を守らなければならない地域などを第一種区域、工業地域のように騒音がやむを得ない地域などを第四種区域と定めています。

第1種区域	第2種区域	第3種区域	第4種区域
第1種低層住居専用地域 第2種低層住居専用地域	第1種中高層住居専用地域 第2種中高層住居専用地域 第1種住居地域 第2種住居地域 準住居地域 都市計画区域内の用途地域の定めのない地域(下図に揚げる区域を除く)	近隣商業地域 商業地域 準工業地域 都市計画区域内の用途地域の定めのない地域(下図に揚げる区域に限る)	工業地域



※ の
区域は第3種
区域に該当す
る。

4 騒音の種類

現在、掛川で頻繁に受け付ける苦情は次の3つのタイプに分類されます。

(1) 近隣騒音

近隣騒音にはカラオケや物売りの拡声器など営業に伴う騒音のほか、一般家庭のピアノ、エアコン、ペットの鳴き声、自動車の空ぶかしなどの生活騒音があり、これらも苦情の対象となっています。

近隣騒音は道路騒音や産業活動に伴う騒音と異なり、規制基準が設けられていませんが、その地域の静かさを確保する目安として環境基準があります。

なお、環境基準には法的拘束力はありません。

一般地域の環境基準（道路に面する地域以外の地域）

環境基準（一般地域）

類型	基準値		該当地域
	午前6時から 午後10時まで	午後10時から 翌日の午前6時まで	
AA	50デシベル	40デシベル	掛川市内には該当なし
A及びB	55デシベル	45デシベル	第1種区域および第2種区域
C	60デシベル	50デシベル	第3種区域および第4種区域

(2) 道路騒音

交通手段や道路交通網の発達により、日常生活が便利で豊かなものになりました。しかし、一方で、道路交通量の増大による大気汚染や騒音・振動問題が発生し、市街地を中心に生活環境が悪化しています。

このため、掛川市では道路騒音および振動を年1回市内主要道路の12測点において、24時間調査をしています。

なお、道路騒音の大きさを比較する基準値として、環境基準の他に要請限度があります。道路騒音が要請限度を超え、道路周辺住民の生活環境が著しく損なわれていると認められる場合、市は県公安委員会に改善するように要請することができます。

環境基準（道路に面する地域）

基準値		車線数	該当地域
午前6時から 午後10時まで	午後10時から 翌日の午前6時まで		
60デシベル	55デシベル	2以上	第1種区域 (第1種および第2種中高層住居専用地域を含む)
65デシベル	60デシベル	2以上	第2種区域 (第1種および第2種中高層住居専用地域を除く)
		1以上	第3種および第4種区域

要請限度

要 請 限 度		車線数	該 当 地 域
午前6時から 午後10時まで	午後10時から 翌日の午前6時まで		
65デシベル	55デシベル	1以上	第1種区域および第2種区域
70デシベル	65デシベル	2以上	第1種区域 (第1種および第2種中高層住居専用地域を含む)
75デシベル	70デシベル	2以上	第2種区域 (第1種および第2種中高層住居専用地域を除く)
		1以上	第3種区域及び第4種区域

(3) 産業活動に伴う騒音

工場、事業所、建設現場など産業活動に係わる騒音の苦情は、騒音公害の典型で、掛川市で最も多く受け付ける苦情です。

「騒音規制法」および「静岡県生活環境の保全等に関する条例」では、特に大きい騒音を発生する施設（特定施設）と建設作業（特定建設作業）をそれぞれ定め、それらの施設を設置または作業を実施する場合、届出を義務づけています。

届出書を受理する際、その騒音対策の有効性を審査し、周辺住民の生活環境に悪影響がないよう指導をします。

(4) 参考資料

ア 環境基準

人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準を環境基準と呼んでいます。

環境基準は、公害行政を進めていく上での指針となるもので、要請限度より数値は厳しいものでありますが、規制基準とは異なり罰則がかけられたり、改善勧告・命令が出されたりするものではありません。

イ 要請限度

普段の生活の中で我慢できる限度をいい、状態を緩和するために要請する基準となります。

自動車騒音又は道路交通振動が一定の限度を超えていることにより、道路の周辺的生活環境が著しく損なわれている場合、市長は県公安委員会に対し道路交通法の規定により措置をとることを要請したり、道路管理者に振動防止のため、道路の舗装、修繕等の措置をとることを要請するとされています。この限度のことを要請限度としています。

5 市内主要道路の騒音・振動調査

道路交通網の発達や交通手段の変化、郊外での開発等で生活の利便性が良くなった反面、道路交通量の増大により大気汚染や交通騒音・振動問題も多く発生し、市街地や住宅地、郊外と幅広い地域で生活環境の悪化が表面化しています。

掛川市でも、郊外での区画整理や民間による宅地造成、小笠山総合運動公園エコパ、さんりーな、環境資源ギャラリー、第二東名の建設や開発が進み道路交通による環境の悪化が予想されますので、地域環境の変化を把握するために主要道路における道路交通騒音・振動について、年1回24時間の調査を実施しています。

時間別の詳細は記載してありませんので、掛川市環境保全課（TEL21-1145）にお問い合わせください。

(1) 平成20年度 主要道路交通騒音振動測定結果

測定地点			騒音レベル(Leq50)			振動レベル(80%上端値)	
No	測定場所・用途地域・車線数	区分	測定値/dB	環境基準	要請限度	測定値/dB	要請限度
1	下俣 市道 掛川・梅橋線 第1種住居地域 2車線	昼間	68.1	65.0	75.0	33.5	65.0
		夜間	62.1	60.0	70.0	25.8	60.0
2	富部 県道 掛川・天竜線 近隣商業地域 2車線	昼間	72.5	70.0	75.0	42.8	70.0
		夜間	66.8	65.0	70.0	28.7	65.0
3	小市 県道 掛川・川根線 準工業地域 4車線	昼間	70.3	70.0	75.0	34.2	70.0
		夜間	60.9	65.0	70.0	26.0	65.0
4	初馬 県道 方の橋・菌ヶ谷線 その他の地域 2車線	昼間	65.7	70.0	75.0	31.5	65.0
		夜間	59.1	65.0	70.0	25.0	60.0
5	満水 県道 掛川・浜岡線 その他の地域 2車線	昼間	70.6	70.0	75.0	40.9	65.0
		夜間	64.9	65.0	70.0	35.2	60.0
6	亀の甲 市道 上張・城西線 第2種住居地域 2車線	昼間	65.7	65.0	75.0	36.0	65.0
		夜間	58.9	60.0	70.0	28.8	60.0
7	板沢 県道 掛川・大東線 その他の地域 2車線	昼間	72.3	65.0	75.0	30.6	65.0
		夜間	66.0	60.0	70.0	24.0	60.0
8	高瀬 県道 掛川・大東線 その他の地域 2車線	昼間	70.2	70.0	75.0	46.0	65.0
		夜間	63.9	65.0	70.0	31.5	60.0
9	千浜 県道 大東・相良線 第2種住居地域 2車線	昼間	62.6	70.0	75.0	37.9	65.0
		夜間	53.3	65.0	70.0	26.3	60.0
10	大坂 市道 鷺田糸繰線 第1種住居地域 2車線	昼間	66.1	70.0	75.0	39.5	65.0
		夜間	58.6	65.0	70.0	28.2	60.0
11	大淵 県道 相良・大須賀線 その他の地域 2車線	昼間	65.3	70.0	75.0	30.3	65.0
		夜間	57.1	65.0	70.0	19.7	60.0
12	西大淵 県道 相良・大須賀線 第2種住居地域 2車線	昼間	68.9	70.0	75.0	44.3	65.0
		夜間	63.0	65.0	70.0	29.1	60.0

※ 太字・網掛けは、環境基準を超えている測点。

※ Leq50＝ある時間範囲について、変動する騒音エネルギーの総暴露量を時間平均した数値。

※ 80%上端値＝振動の大きさの決定方法として、振動計の指示値が不規則かつ大幅に変動する場合の振動レベルのひとつ。

(2) 調査結果の概要

ア 騒音

測定地点No. 1 下俣、No. 2 富部、No. 3 小市、No. 5 満水、No. 6 亀の甲、No. 7 板沢、No. 8 高瀬の7測点で環境基準を超えています。また、要請限度を超えていた測点はありませんでした。

24時間の個別測定結果では、全ての時間で環境基準を越えている測点は、No. 7 板沢でした。

全体的に見ると、騒音が高い測点は高い順にNo. 2 富部、No. 7 板沢、No. 5 満水で、低い測点は低い順にNo. 9 千浜、No. 11 大淵、No. 10 大坂、No. 6 亀の甲でした。

No. 2 富部の騒音レベルが高いのは、近年、桜木地区は住宅や人口が増加傾向にある、掛川天竜線を日常的に利用する車両が多いことが原因と考えられます。

イ 振動

振動については、環境基準は設定されていません。

設定がある要請限度について超える測点はありませんでした。

要請限度を超えている時間帯を持つ測点もありませんでした。

最も振動が大きい測点はNo. 8 高瀬で最も小さい測点はNo. 11 大淵でした。

道路交通振動は測点の地盤に大きく影響してしまうので通過車両のみで判断できない場合があります。

自動車騒音・道路交通振動とは

自動車の騒音源には、エンジン音・排気音・タイヤ音などがあります。交通量が多く渋滞したり、大型車の通行が多いほど騒音は大きくなります。

また、道路交通振動については、自動車の走行等が起因となっており、騒音と同様に交通量や大型車の通行により振動の大きさが変わりますが、その他に道路の構造や段差などによっても振動の大きさが変わります。

自動車騒音・道路交通振動の要請限度とは

自動車騒音又は道路交通振動により、道路周辺的生活環境が著しく損なわれていると市町村長が認めるとき、道路管理者に対し自動車騒音・道路交通振動の防止のため舗装、維持又は修繕の措置をとるべきことを要請し、又は都道府県公安委員会に対し道路交通法の規定による措置を執るべきことを要請する際の基準をいいます。

自動車騒音・道路交通振動の対応策

自動車騒音を緩和させるためには、道路渋滞を解消して自動車のスムーズな走行をさせることや、最高速度制限などの措置が考えられます。また、高速道路等に見られる防音壁や建物の窓を二重サッシにしていくことも有効な手段です。

道路交通振動を緩和させるためには、自動車騒音と同様に自動車のスムーズな走行が有効であり、その他に道路構造の改善や段差の解消なども有効な手段と考えられます。